



(徳田涼佳JS6)

東北地方の山中奥深く

登山者でも寄り付かないような
山間部に隠れるようにその洞穴
はあった

いつそれが始まったのか、もう
記録にも残されていない程昔から
その儀式は続いていた。

巳年、十二年毎に行われるその儀式には
巳年生まれの子が必要とされている。

巫女は厳選な調査に基づき、合意の元
その役割を勤める事になっている。

あ…

たれか
いますか…?

たれか…
ほ…

今回も巫女役の少女の協力を無事得れたようだ。

今後の円滑な儀式運営のため、今回は初めて
無人機による撮影記録を試みる事となった。

ズ…

● REC

「それ」は洞窟の奥の闇から
ゆっくりと現われた



一見すると人のようにも見えるが
ボロボロを纏った「それ」は、はるか昔から
変わぬ姿だという。



あれ...?

あ...
おれか...
いや、まさか...



びっ

今回の少女は無事「それ」に
気に入られたようだった
過去には巫女が選ばれるまでに
十数人が処理された年もあったという



おれ!?

んっ!

じやる

ぢゃ

「それ」がおもむろに少女の物色をはじめ



拒否感を示していた行動が徐々に薄れていき
少女は快感に耐えるように身もだえ始めた

「それ」はが少女を騷り始めてから暫くすると
少女に変化が起き始めた

少女はすっかり発情して
いるようだった

恐怖心で理性がマヒしたのか
「それ」の体液から出る成分
に何らかの作用があるのか？

やがて少女の性器から愛液が染み出し
「それ」の表面を覆う体液とにちやにちやと
音を出して混じり合う音が響くようになると、
それは狙いを定めるように少女の股間に
触手を伸ばした

「それ」は本来ならまだ成長途中の体に過剰な
刺激を与え強制的に発情を促しているようだった



「それ」は少女の腰を抱え込み
逃げられないようにすると、少女の
奥に激しく触手を打ち付けた

触手がつきこまれるたびに少女の体が震え
喘ぎ声とも悲鳴とも取れる声が響く中
「それ」は一際大きく少女の中に突き入れた



ガッガッ

はっはっ

はっはっ

ちゅぽ

ドクン

ドクン

ドクン

ガッガッ

ちゅぽ

ちゅぽ

ドクン

「それ」は少女を抱え込むように覆いかぶさると激しい抽入を繰り返し続けた

時折動きが止まると少女の身体から収まりきらない体液が零れ落ちる



そんな行為が小一時間ほど続いた頃には少女もすっかり反応が薄くなっていた

少女はぐったりと人形のようになり洞窟には水音とかすかな呼吸音だけが響いた



儀式の開始から半日が立った
「それ」は飽きることなく少女を
弄んでいた

少女の腹部は異様なほど膨れ
まるで妊娠しているように見えた

ドク
ドク
ドク
ドク

それからしばらくすると
「それ」は少女を抱えたまま
洞窟の奥に消えていった

これをもって今回の儀式も
無事完了とする

「それ」は人知を超えた存在だ
もしかしたら本当に少女はもう
身籠っていたのかもじれない

おうら
あ、かえらせん……



実際のところこの儀式がいつから始まり
何故続けているのか、把握しているものはもはやいない

「儀式をやめると大いなる災いが訪れる」
という警句が残っているだけだ

だがこれからもこの儀式は続いていくのだろう

少女の犠牲が世界を救っていると信じて



おわり